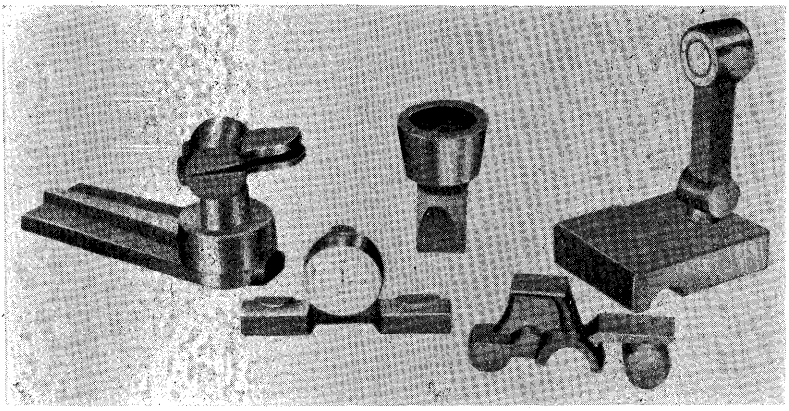
鑄物木型を使つて ≪郷土玩具≫ II



新井久子

十月十二日からお茶の水大で行われた研究集会に、小さい木型を組合せた玩具を出品しました。

「幼稚園の子供たちにも見せたいから少し貸しておいて下さいませんか」との及川先生のお言葉に、そのままおあずけして幾日か過ぎてから、突然編集部で何か書くように言って来ました。

出品された多くの玩具の中で、たしかに珍しいものだったかも知れません。

だからそう言って来たのでしょう。

私は出品する時にも、珍しい、と言う事を一応考えてみたのです。

どこにでもある物ではなし、たしかに珍しいものかも知れない、研究と言う以上、今迄にないようなものでありたい。

けれど珍しい新しいだけで、これを出してどれだけの人が参考になるかしら、そう考えると、どこにでもある材料で、誰にも利用できるものの方が意義があるとも思いました。

しかしそう言うものは、今迄にかなり研究されているし、またこれからも、どなたかが発表して下さるでしょう。

そこで与えられた課題「郷土玩具」として特殊な「鑄物の木型を使用した玩具」を出してみました。

これは鑄物工場のある所でないと手に入りにくい品物ですが、ここに埼玉県の川口は、市内到る所に工場あり、どの工場でも製品を作るには、必ず木型が要るのです。

木型の良し悪しで製品のでき工合も違う程大切な木型を作るのに莫大なお金を出して、さて製品ができあがると、同じ注文がない限りこれを薪に燃やしてしまう、誠にもったい

ないお話で、何千何万種類あるか分らないと言うその形は大変面白く、各工場からゆずり受けた様々な形のものを、私の園では子供たちに自由に使わせております。

大きい物は庭に置いて、お舟ごっこや、自動車ごっこに、大勢乗って遊べるし、小さいものは砂遊びに、ままごとに、子供たちの夢をみたしてくれます。

大小の車輪の木型は広い庭をころがして遊び、又リンゴ箱に足をつけ、丸い木型をライオンの顔にし、細長いものをキリンの首にし、思い思いに子供たちが選び出して、使っております。

細長い布を縫合せて綿をつめ、針金を通して象の鼻を作る事や、動く大きな耳を作ることなど、むずかしいと思う事は、先生が少し手伝ってやると、あとは小さな金づちを持出して丸い木型にくぎで打つけるし、お母さん象が出来ると子供の象を作り、面長のカンガルーの、お腹の袋には、お人形さんを入れてみたり、どこまでも遊びが発展して行きます。年少組の男の子でも、気の強い子は、ライオンが好き、内気な子は、小さい象にのって嬉しそうに、降りようともしません。

すると切符売場で切符を買った子供が、列を作って、「二十乗ったら代るんだよ」。一つ二つ、とまるでブランコの順番を待つように数をかぞえて待っています。

飛行機の部分品、汽船の部分品、ミシンの部分品、またはトロッコの部分品、それぞれの木型が、何かの一部分をなしている中で、殊に一見して分らないものは、小さな指先大のものなど、これは一体何かしら、と首をかしげるようなものばかり。

それでも子供たちは「先生、これ置時計みたい、ままごとの時計にしましょう」「先生、これきつねの顔みたい」などといろいろ考え出します。

いろいろに組合せたものをセメダインでつけてラックニスをぬりますと、見違えるような玩具ができあがります。

空箱の動物は、それらしい色をぬりますと一層効果がありますが、その他のものは余り著色しない方が良いように思われます。

単一色によって他の物と組合せもできますし、影絵のような幻想的な雰囲気の中にとけこんで時のたつのを忘れます。

子供の遊びはそれ自体が生活であり、たくましく遊ぶ子は必ず大きくなってから良く学ぶ子になると申します。成人してからも旺盛な生活力をもつ人間になるでしょう。

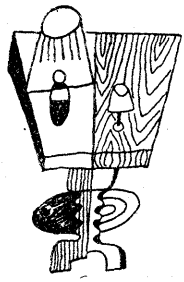
子供の一日は遊びに始まり遊びに終る、その毎日に欠かす事のできないのは、或程度の玩具です。

一人遊び、集団遊び、室内、屋外、皆それ相応の玩具が用意されたいのですが、破壊者である子供に使わせるには、こわれやすいもの、あぶない物はさけなければなりませんし、安価な手に入り易いものである事が望ましいと思います。

またそうでないと補充しにくくなります。その上製作自身が子供の興味となり、保育の内容となるように心がけなければなりません。

そうして作られた物での遊びを展開させるためには、先生の助言や遊導も必要ですが、

ドイツ便り



相場　均

私がアメリカを出てヨーロッパに来てからはや半年近くになろうとしています。

イギリスではおもにロンドンとオックスフオードですごし、オックスフオードの実験心理学研究所を尋ねたりしました。フランスでは半月ほどパリーですごし、ちょうどアメリカから飛んで来られた慶応大学神経科の三浦岱栄教授におめにかかり、その後ベルギーの外務省のお客さまとして、一週間同国の精神医学および心理学の施設を視る機会をあたえられました。

そうして現在は西ドイツのチュービンゲン大学神経科に働くことになって、この古い学都におちついています。私たちの所長は有名な精神医学者のクレッチマー教授で今なお大へんお元気です。

神経科の四階建のビルディングは小高い丘の上にあって、そこから中世に栄えたチュービンゲンの古めかしい町がみおろせます。この町からはヘーゲルとかヘルダーリン、シエリングのように有名な哲学者、文学者も数多く生れていて、町の真中を流れているネッカの河のほとりを歩いていると、そうした詩と思索とをいつとはなしに感じるのです。

二十日ほど前に私はベルリンを尋ねて来ました。ハンブルクから飛行機ではるかに東ドイツの大地をみおろしていると一時間ほどでベルリンにつきます。ベルリンの警察官は飛行場の出口にまっていて、つくと旅券を調べて、英独仏露の四ケ国語で書いた滞在許可証のスタンプをおしてくれるのです。そこですでに国際都市の緊張を感じます。ベルリンの市内の破壊のされ方は実にひどいもので、今なおさんたんたるものですが、その中からひどく近代的な、そうしてものすごくモダンな建物があっちこっちに立ちつつあるのです。

それは先生方の技術の部門になりますからここでは省きましょう。

日々の細工物にして画用紙も、色紙など、市販のものばかりでなく、印刷屋さんから切屑をゆずり受けるのも良いでしょうし、包装用のセロファンの紐で、手さげを編むことなどできあいの織紙を使うより、家庭でもできる事によって、余程効果あることはどなたも御承知の事と思います。

どこの町にも独特な何かがあり、前からそれを使っておられて、自分ではさして珍しいものでないと思うものでも、客観的にみて、何と珍しいと感じる沢山のものがあると思います。

砂浜に打上げられる貝のように、後から後から寄せられる何百もの木型によって際限なく子供たちの空想の世界は開けて行きます。

工場の煙の消えない限りその恩恵で子供たちは豊かに育って行くでしょう。

（川口南幼稚園）